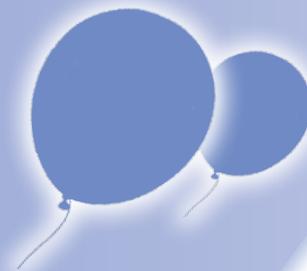


# ステークホルダーとの 関係強化



## || コーポレートガバナンス・ガイドラインの制定

セブン銀行は、お客さまの大切な資産をお預かりするとともに、公共インフラとしてのATMネットワークを保有・運用する銀行として、規律ある経営を行うことが必要不可欠と考えています。実効的なコーポレートガバナンスの実現に向けて、当社が具体的に取り組むべきことをより

明確にするため、これまでの経営情報に加え、2015年12月にコーポレートガバナンス・ガイドラインを制定、公表しました。

※ くわしくはセブン銀行WEBサイトをご覧ください  
<http://www.sevenbank.co.jp/ir/management/governance/>

## || 子どもたちの健全育成支援

### 『森の戦士ボノロン』への協賛

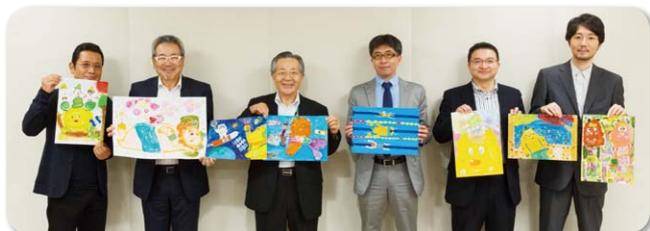
2005年6月より、読み聞かせ絵本『森の戦士ボノロン』に協賛し、偶数月に毎号約100万部をグループ会社のセブン・イレブンやデニーズ、ファミリー、ヨークベニマル、セブン銀行有人店舗等で配布しています。この絵本は、読み聞かせを通じて生まれる子どもの「なぜ?」「どうして?」が親子のコミュニケーションにつながることを期待して発行されています。



©NSP2005、©ボノロンといっしょ。2007

### 誌面上での読者参加型企画

『森の戦士ボノロン』では、物語だけでなく、読者参加型の企画も展開しています。10回目となる絵画コンクールでは「ボノロンとわたしのねがい」というテーマで作品を募集し、2015年10月号の誌面で受賞作品を発表しました。



絵画コンクール入賞作品

### 読み聞かせイベントを開催

セブン銀行の有人店舗5店舗で、従業員が大型絵本の読み聞かせを行う「ボノロンおはなし会」をのべ10回開催しました。また6月の環境月間では、ボノロンを通じて子どもたちに楽しく環境について学んでもらえるよう、「ボノロン環境のおはなし会」を実施し、環境のおはなしやクイズを行いました。さらにボノロン10周年を記念して、2015年9月には福島県郡山市にある遊びのひろば ペップキッズこおりやまで、11月にはアリオ蘇我店、アリオ西新井店でボノロンショーを開催しました。



蘇我店でのボノロンショー



ボノロン環境のおはなし会

# CSRコミュニケーション

## 「ポノロンの森環境活動」の実施

2015年9月、「第8回ポノロンの森環境活動」を実施しました。この活動は、従業員の「自然を慈しみ、大切にしたい」という心を育む環境教育の一環として行っています。ホールアース自然学校（NPO法人ホールアース研究所）ご協力のもとで行った森林ウォークでは、「富士山麓山の村」の森を歩きながら、森や自然の魅力を発見。その後はNPO法人富士山クラブご協力のもと、西臼塚近くの国有林の清掃活動を行い、ビン・缶や、不法投棄された資材などのゴミを回収しました。



西臼塚近くの国有林での清掃活動

## 視覚障がいのあるお客さまへの音声ガイダンスサービス

「だれでも」ご利用いただけるATMを目指して、「音声ガイダンスサービス」を提供しています。ATMに備付けのインターホンから流れる音声案内にそってインターホンのボタンを操作することで、お引出し、お預入れ、残高照会が可能で、銀行などの預貯金取扱提携金融機関と証券会社のお客さまにご利用いただけます。また、音声ガイダンスサービスをより広く認知していただけるように、2015年12月から2016年1月にかけて「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」に協賛する「音声ガイダンスサービス 知って！広めて！キャンペーン」を実施しました。



音声ガイダンスサービスキャンペーン画面

## 環境NPO団体へのクリック募金を実施

セブン銀行ではWEBサイト上のクリック回数に応じて寄付を行うクリック募金を実施しています（1クリック1円）。2015年6月の環境月間には「環境NPO団体応援クリック募金」と題し、セブン銀行が毎年行っている「ポノロンの森環境活動」を紹介するとともにクリックを募り、276,134円を「ポノロンの森環境活動」にご協力いただいているNPO法人ホールアース研究所とNPO法人富士山クラブに贈呈しました。贈呈式は9月に実施した「ポノロンの森環境活動」で行いました。



NPO法人ホールアース研究所への贈呈式



NPO法人富士山クラブへの贈呈式

## エコプロダクツ2015への出展

2015年12月に開催された「エコプロダクツ2015」（主催：一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社）に、セブン&アイHLDGS.グループの一員として出展しました。ATMの省エネ対策やリサイクル、「ポノロンの森環境活動」について広く知っていただきました。



ATMの省エネ対策をパネルで説明

## 復興支援

### —福島県へ移動ATM車両を派遣—

内閣府 原子力災害対策本部 原子力被災者生活支援チーム及び福島県双葉郡葛尾村の要請により、2015年10月から2016年3月まで、葛尾村へ定期的に移動ATM車両を派遣しています。東京電力福島第一原子力発電所事故により避難指示区域に指定されている葛尾村では、避難指示解除に向けて、自宅の修繕・清掃、農地の管理、店舗・事務所の再開準備などを行うための準備宿泊が始まっていますが、まだ村内に利用できるATMがありません。10月の派遣時には「いつも使っているATMと同じだから安心して使えた」「こうして少しずつでも利便さが戻ってくることが希望につながる」などのお声をいただきました。移動ATM車両は3月まで毎月1～2回程度派遣し、葛尾村の復興・再生をサポートしていきます。



セブン銀行 移動ATM車両



## 高齢化社会への対応

### —認知症サポーターの育成—

セブン銀行では、従業員の認知症に対する理解を深め、認知症の方やそのご家族が安心して暮らせる街作りを支援するため「認知症サポーター<sup>※1</sup>」の育成に取り組んでいます。多くの従業員が「認知症サポーター」になれるように、複数の従業員が講師役である「キャラバン・メイト<sup>※2</sup>」の認定を取得し、「認知症サポーター養成講座」を実施しています。地域社会の安心・安全に貢献できるよう、今後も引き続き、認知症サポーター育成を強化していきます。

※1 認知症について正しく理解し、認知症の方やご家族を温かく見守り支援する応援者。  
 ※2 「キャラバン・メイト養成研修」を受講し、全国キャラバン・メイト連絡協議会に登録。



認知症サポーター養成講座



### 【認知症サポーターの声】

認知症という言葉は知っていましたが、具体的にどのように接したらいいのかわかっていませんでした。認知症の方への接し方は、人との接し方の基本だと感じました。認知症の方だけでなく、お客さまや仕事の仲間、家族など、あらゆる方に対して思いやりをもった対応ができるよう、相手を尊重することが大切だと思いました。今後は認知症サポーターとして、地域の住民として、だれもが安心して暮らせる街作りのお役に立てよう取り組んでいきます。



リテール営業部 イトーヨーカドー蘇我店出張所 木村圭子

# ライフステージに合わせた働き方支援

## 在宅勤務制度の導入

多様なライフステージにある従業員が仕事とライフイベントを両立できる職場作りを目指し、2015年10月より在宅勤務制度を導入しました。この制度は、妊娠中の女性や小学生の子どもをもつ従業員、また家族の介護や怪我等で通勤困難な従業員が利用できます。制度導入にあたっては、ガイドブックに適用条件等を明示すると

ともに、「在宅勤務（半日）+ホームヘルパー立会い（介護休暇・半日）」や「感染症予防や天候不順による臨時休校期間」等の具体例を示し、対象となる従業員が利用しやすいようにしました。今後も積極的にダイバーシティ推進施策を検討、実施していきます。